

遺跡発掘調査速報展2008

倒叙三条史

現在から過去へとさかのぼる…発掘調査から見える三条史



墨書土器(安曲遺跡)

信濃川堤防築堤地区(上須頃ほか)

南谷地遺跡(西本成寺二) 平安

下町遺跡(西大崎一) 平安・室町

戸口遺跡(戸口) 平安・室町

安曲遺跡(下保内) 平安

石田遺跡(須戸新田) 平安

五百川遺跡(北五百川) 縄文

高野遺跡(北五百川) 旧石器・縄文

北浦A遺跡(大谷地) 縄文

平成20年4月5日(土)～5月6日(火・休)

平成19年度も、市内のあちらこちらから、私たちの先祖の生活の痕跡が数々見つかりました。

古くは高野遺跡(北五百川)の旧石器時代の石器や、北浦A遺跡(大谷地)の縄文時代のイエの跡。新しいものでは、戸口遺跡(戸口)や下町遺跡(西大崎一丁目)の室町時代のムラや鋳物師の遺跡などです。

市内のどういうところで、どういう人たちが、どんな暮らしや仕事をしていたのか…。

この遺跡発掘調査速報展にずらりと並ぶ展示品をぜひご覧いただき、先祖たちの生活の姿に思いをはせてみてください。

館長 太向 義明

しなのがわちくとい かみすごろ 信濃川築堤地区（上須頃ほか）

新しい堤防の工事箇所は、江戸時代まで屋敷があった場所です。遺跡が埋もれている可能性があるため試掘調査を行いました。2 m以上もの深さからガラス瓶などが出土しましたが、古い時代の遺跡は発見されませんでした。以前あった屋敷跡は、明治時代の堤防を造る工事の際に土取りされ失われたと推定されますが、さらに地中深くに埋もれている可能性もあります。

とぐち とぐち 戸口遺跡（戸口）

平成 18 年度に行った発掘調査により、今から 1,100 年前の平安時代と 700 年前の室町時代のムラの跡であることがわかりました。大面荘の成立前夜とその支配がより進んだ頃にあたります。建物、井戸、区画溝などの遺構や食器、煮炊具、木製品、石製品、鍛冶遺物など豊富な品々が発掘され、低地の開発を盛んに進めた人びとの暮らしを物語ります。

しもちょう にしおおさき 下町遺跡（西大崎一丁目）

遺跡の広がり把握するため部分的な調査を行い、約 1 m の深さから柱穴などが見つかりました。鋳型・炉壁などの遺物が出土し、周辺部に鍛冶・鋳物に関連した遺構があるものと思われます。

この遺跡は西大崎鋳物師の本拠地と推定され、三条の金属産業史を考える上で大変興味深い遺跡です。



確認された柱穴など

みなみやち にしほんじょうじ 南谷地遺跡（西本成寺二丁目）

本成寺地区の遺跡分布を調べる調査で発見された平安時代の遺跡です。この地区の集落に隣接する微高地には、平安時代以降の多くの遺跡が発見されています。『堀田永年私財法』により、低地の開発が盛んに行われたことが遺跡分布からわかります。

平成 19 年度は民間開発に伴い、遺跡の広がり調べるため確認調査を行いました。遺構、遺物は確認されませんでした。



平安時代、室町時代の戸口遺跡出土品

いしだ すどしんでん 石田遺跡（須戸新田）

石田遺跡は須戸新田地内にあり、標高約 6 m の自然堤防上に立地します。地表から約 1 m の深さから南北・東西方向の溝跡や土坑が見つかりました。遺物は溝跡や周辺から須恵器の食器や土師器の煮炊具が出土しています。遺跡の周辺は低地であり、低地の開発を考える上で重要な遺跡です。



発掘された石田遺跡

あまがり しもほない 安曲遺跡（下保内）

吉津川右岸の標高約 5.5mに位置します。県営ほ場整備事業吉津川地区に伴い調査を行い、溝跡や土坑、柱穴が確認され平安時代のムラの跡であることがわかりました。遺跡の北側では平安時代の木棺墓が検出されています。

標高が高い東側で遺構が集中し、特に南北方向に広がる溝跡や土坑が見つかりました。南北方向の溝跡はほぼ同じ向きであるため、同じ時期に使用されたと考えられます。遺跡の西側は地形が落込むため遺構は確認されませんでした。

過去の調査から、木棺墓が検出された北側や東側にムラの中心があると推定されます。



木棺墓



発掘された溝跡

たかの きたいもがわ 高野遺跡（北五百川）

ほ場整備に伴い 192 m²を本発掘調査したところ、溝 1 基、ピット 78 基の多数の遺構と遺物が出土しました。この溝は平安時代ごろのものと考えられ、もともとの沢状の地形を掘削したものと考えられます。溝からは流れ込んだと考えられる旧石器時代と縄文時代の石器が出土しました。

溝の北側と南側には多数の建物跡が出土しました。調査地は駒出川を見下ろす高台であるため、見晴台のような建物が建っていたものと考えられます。



出土した溝

いもがわ きたいもがわ 五百川遺跡（北五百川）

五百川遺跡は粟ヶ岳を望む標高 127mの駒出川左岸の河岸段丘上にある大集落です。

ほぼ完全な形の底のない土器が出土しました。辺りからは焼け石が多く出土したため、炉に埋められた土器の可能性もありますが、周りの土は焼けていませんでした。そのため、炉跡ではなく、埋葬の儀式に伴って火が焚かれ、その儀式が終わった後、骨を土器に納め、焼け石とともにこの場所に埋めた可能性があります。縄文時代後期前半（約 3,500 年前）の土器です。



埋葬の儀式に関係した焼け石と縄文土器

きたうら 北浦 A 遺跡（大谷地）

大谷地字北浦に所在する縄文時代の前期と後期を主体とした遺跡です。五十嵐川右岸の低位段丘上に立地する遺跡で市道大谷地枝の上線の道路改良工事に伴い260㎡を発掘調査しました。イエの跡1軒、土坑9基、柱穴36基、溝2基が発見され、コンテナ10箱分の遺物が出土しました。

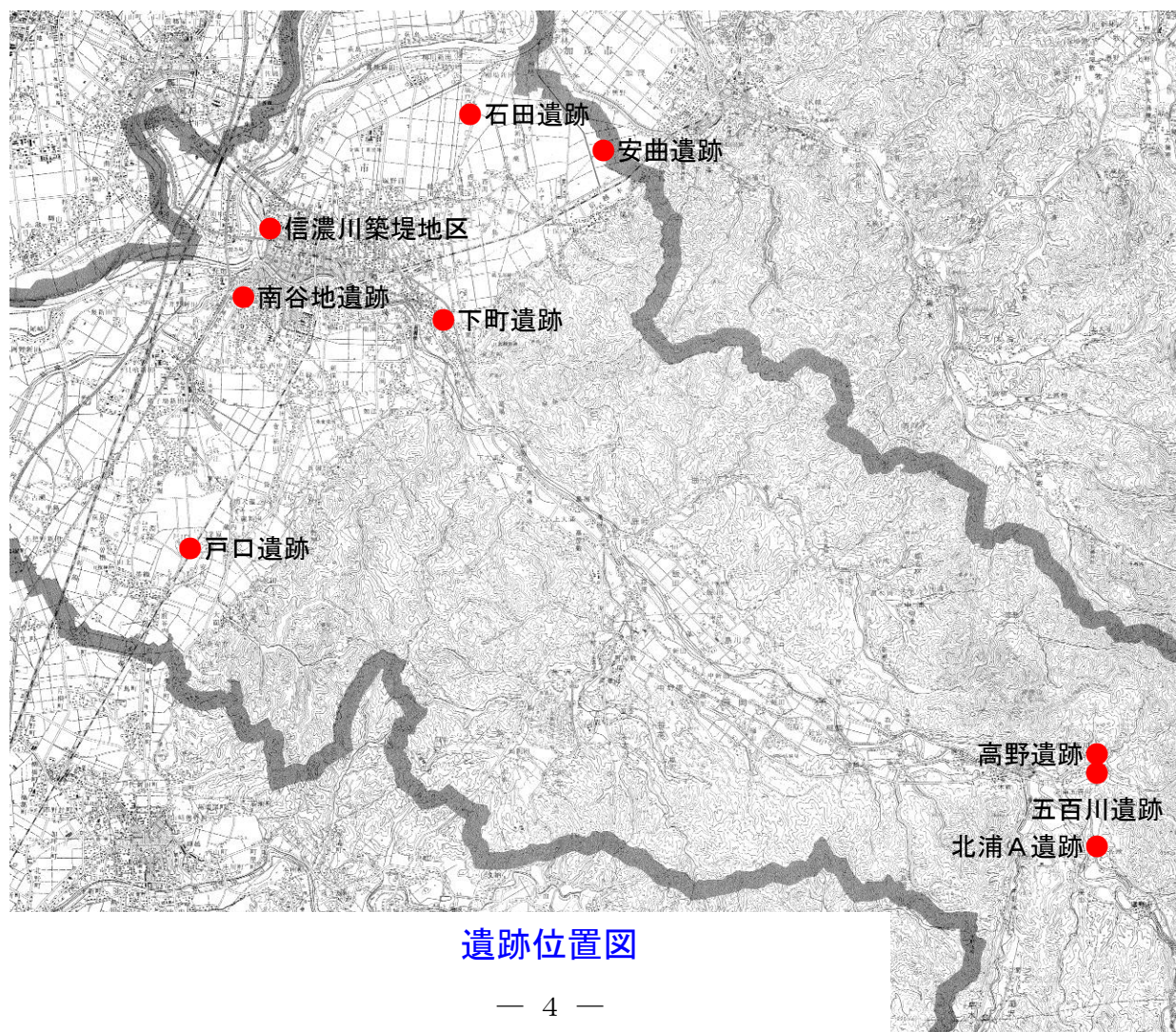
この遺跡からは、山住みのくらしの各種の道具が出土しています。弓矢の矢の先につけ、狩りに使った石鏃の未製品や、魚捕りの網の錘に使った石錘や、採集した木の実を磨り潰す台石と磨石などが見つっています。イエの柱を建てる時に土を掘った道具と考えられる打製石斧も採集されています。



発掘された北浦 A 遺跡



発掘されたイエの跡



遺跡位置図